

(様式2)

平成 24 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1590200067		
法人名	社会福祉法人 長岡三古老人福祉会		
事業所名	グループホームけやきの杜		
所在地	新潟県長岡市上野町1059番地2		
自己評価作成日	平成24年10月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/15/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人新潟県社会福祉士会		
所在地	新潟県新潟市中央区上所2丁目2番2号 新潟ユニゾンプラザ3階		
訪問調査日	平成24年12月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・同法人内のグループホームの方々と交流させていただいたり、併設しているケアハウス・デイホームから、グループホームへ入居された方もおられ、安心できる馴染みの関係が出来ている為、交流を楽しんでいただいている。

・周囲には畑・庭など自然に恵まれており、ご家族や近所の方からご協力いただき、4階バルコニーをはじめ、中庭のふれあい農園やご近所の家で、畑仕事や花作りを楽しんでいただいている。

・4階である為、外出する機会や地域との関わりが少なくなる事の無いよう、なるべく地域や馴染み、関わりのあった場所へ外出していただけるよう支援している。

・職員を育てる取り組みとして、各種研修への参加、また、法人内のグループホームにおいて研修計画を立て、法人内の各グループホームの各々の特色を活かしながら、ご利用者のより質の高いサービスの提供がなされるよう研修会や交換研修を実施し、職員の資質向上、研修の強化に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年、年の初めに利用者と職員が協力して事業所のその年の理念づくりを行っている。利用者に「ここでどんな暮らしがしたいですか」などと聞いて出された要望や意見を尊重し、平成24年は「みんなの和を大切に」という理念が利用者と職員の共同作業により作られた。

職員の「利用者にしあわせに暮らしてほしい」という願いは、優しさの伝わる対応や支援に表れている。家族に利用者の普段の笑顔を見てもらいたいという思いから、一年の暮らしぶりのわかるDVDを作成して希望する家族へ配布している。また、廊下に掲示してある利用者の写真は、「日々の生活の様子を知りたい」という家族の要望から始まったものであるが、利用者が廊下で足を止めて職員とともに思い出を振り返る機会にもなったり、家族が暮らしぶりを知る機会にもなったりと、本人、家族から喜ばれている。

また、利用者から昔ながらの料理(笹団子、ちまき、梅干し、おせち、郷土料理等)を教えてもらったり、廊下の掃除やプランターの草花の水やりなどの役割を持ってもらったり、年末には家族とともに大掃除や忘年会の料理作りを行っている。

運営推進会議は、本来の会議だけで終わらせるのではなく、夏祭りや忘年会などの行事と併せて行うことによって大勢の方から参加してもらい、日頃の利用者の暮らしぶりやホームの様子等を家族や地域の方々から見てもらおう良い機会として活用している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	BS法を用いた中でご利用者と職員で話し合いGH独自の理念を作成。理念をGH内に掲示し常に自覚しながら実践できるよう取り組んでいる。	年の初めに利用者から「今年は何なことをしたいか」、「どんな生活にしたいか」などの意向、要望を聞き、利用者や職員と楽しく新年の理念づくりを行っている。利用者にもわかりやすい言葉を用い、利用者や職員が心を一つにしてその生活づくりを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	ボランティアに来て頂いたり、グループホームへ出かけ交流の機会を持っている。近隣の祭りや敬老会に参加させていただいている。日常の生活の中で、買い物を始め、混乱や不安がないよう配慮しながら、郵便局、市役所等へも一緒に出かけて頂くようにしている。	町内会長などとも良い関係を築き地区の敬老会や祭りなどにも積極的に参加している。地元の方の畑でタケノコ堀りや枝豆採りなどをさせてもらい、そのお礼として利用者や職員が作ったちまきや笹団子を差し上げたりと、日頃から近所付き合いを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域での花いっぱい活動に参加している。近隣の畑に寄せて頂いたり、作ったお花の苗を近隣にお届けしたりしている。また、夏祭りに招待し楽しんでいただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では地域の方、ご家族から出席して頂いてGHでの様子の報告や話し合いを行っている。そこでの話し合いをもとにサービスの向上に努めている。	2ヶ月に1回、利用者、家族、町内会長、行政担当者、地域住民、地域包括支援センター職員などから参加してもらい、ホームの運営状況の報告や意見交換を行っている。ホームの忘年会や夏祭り等の行事と併せて行うことで、日頃の生活を見てもらう良い機会にもしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の訪問相談員の方より2ヶ月に一度訪問して頂き、ご利用者の相談にのっていただいている。わからない事があれば市の担当者や連絡し、その都度相談にのって頂いている。また、年に1回ではあるが、市で主催して下さるグループホームの交流会に参加し、意見交換を行っている。	運営推進会議にも行政担当者から参加してもらい、ホームの現状を見てもらっている。日頃からも制度面でわからないことを聞くなど、連携・協力体制を築いている。年1回行政の主催するグループホーム会議にも参加し、意見交換を行い連携に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修で身体拘束について学習したり法人全体として身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。建物の構造上、安全面に配慮し下へ降りられないようになっているが、下へ降りたいときは行っていただけるよう支援している。	施設内研修や法人内研修で身体拘束をしないケアについて学んでいる。マニュアルは職員がいつでも確認できるように整備されている。エレベータで階下に行きたいという利用者には、意向を尊重し、職員が付き添っていくなど、行動を制限せず安全な生活を支援するためにできる限りの配慮を行っている。	
7	(5-2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修の年間計画の一つとして実施している。関係資料をグループホーム内に置いて、いつでも職員が読めるようにしている。	施設内研修、法人内研修で虐待防止について学んでいる。職員が虐待と意識してこなかったケア行為(食器を早く下げてしまう、本人を安心させるための嘘をついてしまう等)についても介護放棄と関係づけて理解を深め、虐待防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修の年間計画の一つとして実施している。関係資料をグループホーム内に置いて、いつでも職員が読めるようにしている。ご利用者のご家族よりお話しがあれば、相談にのっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分に話し合いの時間を持ち説明(ご家族説明会を開催)の上、納得、理解していただいたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問相談員の方より二ヶ月に一回来て頂いたり、日々の会話や様子を通してご利用者の意見・要望を吸い上げ、反映に努めている。面会時に気兼ねなく職員に言って頂ける雰囲気作りと会話を大切にしている。意見箱を設置したり、意見交換の場を設け意見反映に努めている。年に1回後家族・ご利用者各々でそれぞれ意見交換会を設けている。要望内容は、運営推進会議やサービス担当者会議で報告している。	家族の面会時に本人の暮らしぶりを伝えるとともに、事業所に対する意見、要望を聞くよう努めている。廊下への利用者の写真の掲示は、日頃の生活ぶりをもっと知りたいという家族の要望を受けて実施したものである。本人からは日頃の生活の会話の中で意見、要望を聞くよう努めており、市から派遣される介護相談員も活用して利用者の声を聞いてもらい、ホームへフィードバックしてもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月一回グループホーム会議、経営会議、各種委員会を実施し職員の提案を聞き取るようにしている。管理者が、日常から職員の意見を改善に結びつくように聞くようにしている。	管理者は日頃から職員が意見・要望を言いやすい雰囲気づくりに努めている。月1回のグループホーム会議では、業務のこと、ケアに関することなど様々な意見や提案が出されており、それを運営やケアの質の向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月一回のグループホーム会議で現状や取り組みの確認を行っている。個別研修シートを活用し、個々の目標達成に努力するよう努めている。資格取得に向けて学習の機会や支援を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内の研修をはじめ、法人内での事例検討、法人外での研修会にも参加している。また、職員の経験年数に応じた研修も実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内において部会を毎月一回開催し、各グループホームの現状報告や意見交換、勉強会を通じ質の向上へと繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談から利用に至るまで本人にお会いし、お話を聴く機会を設けている。十分に説明し本人が安心できるよう努めている。言いやすい雰囲気や場面作りに努め、一緒に生活しながら変化や不安な事に耳を傾け、思いに気付けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みの時点で、困っている事や不安なこと、求めている事等をご家族からお聴きし、相談にのるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要な支援があれば、ケアマネに報告・相談したり、法人内の各種サービスへ繋がれるように他施設と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者も職員も常に協力し、支え合い、一緒に生活をしているという意識を大切にしている。見守ったり、一緒に考えていったりすると共に、ご利用者の職員に対する優しさや思いやりを大切に受けとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(7-2)	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族にも施設の行事に参加して頂き、一緒に楽しんだり協力してもらったりしている。ご家族と連絡を取り合い、様子を伝えたり必要であれば相談している。受診については、ご家族から付添っていただく事を基本としている。	ホームでは、家族と協力し合って本人を支えているという意識を持っている。行事等にはできるだけ家族から参加してもらえるよう声をかけ、家族と本人、ホームとの絆を深めている。年末には家族とともに大掃除を行い、忘年会の料理を一緒に作るなどしている。受診同行は家族の役割として協力してもらっており、本人の体調のことなどを良く理解してもらおう機会となっている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族より、自宅への外出・外泊等の協力をさせていただき、自宅の畑のお手伝いや馴染みの床屋などを利用させていただいている。施設内の以前利用していたサービスでのご利用者や職員との関係継続の支援を行っている。	家族や友人、兄弟、近所の方等の面会の際には、できる限りゆっくりと楽しい時間を過ごしてもらえるような場所を提供することを心がけている。馴染みの人からの手紙には返事を書く支援をし、関係が途切れないようにしている。センター方式のアセスメントシートを活用して情報を整理し、個々の馴染みの関係を把握している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士が穏やかに気持ちよく生活していけるように、必要な時は職員が間に入り、大きなトラブルにならない様に配慮したり、ご利用者同士の関係や背景を把握し、仲良く過ごせる場の設定や雰囲気づくりに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用者が永眠されて契約が終了となったご家族の方々からも、運営推進委員会や行事に参加していただき、意見を参考とさせていただいている。遠慮なく来ていただける良い雰囲気作りを心がけ、必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりのご利用者の思いや意向を尊重し、日々の言動からも、その方の思いを読み取る努力をしている。ケアプランの見直しの際はご本人の意向を確認している。	日々の暮らしの中での何気ない会話から、利用者一人ひとりの思いや希望を聞き取るよう努めている。入浴時や夜勤の時など職員と2人きりで話す機会に本音の思いが聞けることもあり、そうした時間を大切にしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24	(9-2)	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、ご本人やご家族にお聴きしたり、担当ケアマネより情報をいただいたり、センター方式の一部の書式を用い、ご家族より記入していただいている。また、ご本人との日々の会話の中やご家族・知人の面会時にお話をお聴きしたりしている。	家族から聞き取りをしたり、家族にセンター方式のアセスメントシートに情報を記入してもらい、これまでの生活歴や生活環境、サービス利用の経過等の把握に努めている。それらの情報により職員は利用者を理解し受け止めることができている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や写真に残し、確認・把握するように努めている。また、日中に行うミーティングの中でご利用者の状態を話し合い、把握し働きかけが出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見をお伺いし、相談してケアプランを作成している。カンファレンスで職員同士、気付いた事や感じた事を話し合いプランの内容について検討している。	本人・家族の意向や要望は聞き取りを行うほか、可能な範囲で担当者会議への参加を得て把握し、センター方式の様式を使ってアセスメントを行って介護計画の原案を作成している。それを基にグループホーム会議でのケース検討を行って、介護計画を完成させている。状態が変化した場合などは随時検討会議を開いて介護計画の見直しを行っている。	介護計画については、職員がいつでも確認しやすいよう、ファイリング等の方法のより一層の工夫を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケース記録、業務日誌に記録し、グループホーム全職員が確認し情報の共有に努めている。グループホーム会議やミーティングの際に意見を聴いて、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の機能を活かし、他事業所の様々なイベントや行事に参加する機会が多く、楽しんでいただいている。法人内のグループホームとも連携をとり、行事に参加していただいたり、サービスを紹介するなど支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会で意見をいただいたり、市から介護相談員の方に来ていただきアドバイスをいただいている。ボランティアの受け入れも協力しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には在宅からのかかりつけ医を継続して利用されている。また、受診はご家族から対応していただき、受診時必要があれば連絡票や直接電話にて本人の状態を医療機関へ報告してから受診していただいている。	本人、家族が信頼しているかかりつけ医から継続的に診てもらっている。医師に対してはホームでの様子などを情報提供し、適切な診療が受けられるように支援している。受診の結果は家族とホームとで共有し、日々のケアに役立っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	兼務で併設のデイサービスの看護師が関わっており、日々の情報交換と共に、相談や確認が随時取れる体制となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	必要な状況に応じ医療機関と相談・話し合いを行い一緒に考え、対応できる体制づくりに努めている。入院時、必要な情報を伝え、また入院時の様子や退院の可能性、予後に関して連絡を取り情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴う指針について説明。ご本人・ご家族の意向に沿った中での支援を基本としているが、事業所として「できること・できないこと」について明確な線引きは行っていない。その都度ご家族や医療機関に説明・相談し、どのような方向がご本人にとって一番良いのかを一緒に検討していきたい。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方についてホームの方針を伝え、家族と話し合いを行っている。看取りはこれまでも行っているが、その都度医療機関の協力をきめこまかい指示を得ており、また、家族の協力も必要であることを伝えて、方針を共有しながら支援している。	
34	(12-2)	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内研修で対応を学ぶとともに、スタッフルーム内の目に着く場所にマニュアルを掲示している。	年1回消防署職員の指導による救命救急法の研修を実施しており、急変時や事故発生時の対応について実践力を養っている。また、スタッフルームにはいつでも活用できるように対応マニュアルが整備されている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	研修で対応を学んだり、防災訓練を定期的に行い避難方法を身に付けている。町内の防災会と協力し、地域に呼び掛け、消防、通報、緊急連絡、誘導の訓練を一緒に行なっている。	概ね月1回の頻度で内容を変えて防災訓練を実施し、災害時に備えている。地区の防災訓練に職員が参加したり、ホームの訓練にも地域の方々から参加してもらい、日頃から協力体制を築いている。訓練の反省を活かして、避難誘導時の動きを細かく修正したり、車いす使用者の移動方法について個別に時間をかけて学ぶなどしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者に対して、礼儀や尊敬の念を持ち関わっている。お一人おひとりの思いや生活習慣に寄り添い、可能であれば同性介助での対応等も行っている。	接遇や認知症についての研修で「人間の尊厳」について学んでおり、職員は日頃から利用者に対して尊敬の気持ちをもって接するよう心がけている。排泄や入浴の際にはさりげない声かけや同性介助を行うなど、自尊心やプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人に何うことを基本に言葉掛けを行っている。思いや希望が表現しづらい時は職員からの言葉を借りて伝えられるようにしたり、非言語的コミュニケーション等も大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人のペース、意向に沿った支援を努めているが、健康を害されないように支援することを大切にしている。どのように対応していく事がご本人にとって1番良いのか検討し、職員の都合やペース、自己満足にならないよう注意し、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人やご家族の希望をお聞きし対応している。理美容に関してはご家族が馴染みのお店に連れて行かれたり、訪問美容を利用している。外出時や行事に沿った洋服もご本人の希望を取り入れさせていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の食事作りは、ご利用者と一緒に下ごしらえから片付けまで行っていただいている。ご利用者と職員と一緒に食事を楽しむような雰囲気作りに努めている。	毎日の食事の準備の際は利用者一人ひとりの力を活かして、下ごしらえや味付け、盛り付けなどを職員と一緒にしてもらっている。また、畑で作った季節の野菜で漬物を作ったり、昔ながらの料理(笹団子、ちまき、梅干し、おせち、郷土料理等)を作るなど、職員が利用者に教わりながら一緒に楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックを行い、必要量を摂取されているかを把握している。状態に応じて、ご家族や主治医にも相談し対応している。献立は管理栄養士からアドバイスももらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きやうがいを働きかけており、口腔状態やご本人の持っている能力に合わせて援助を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意を訴えられた時や定期的なトイレ誘導を行っている。声かけや見守りを行い、出来る所はご本人から行ってもらっている。間に合わず、汚された場合等、自尊心を傷つけることのないような対応や言葉掛けに努めている。	排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、それをもとに声かけや誘導を行い、排泄の失敗を減らすよう取り組んでいる。声かけや対応の際は利用者の自尊心を傷つけないよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材に野菜を多く取り入れたり、乳製品を取り入れたりしている。水分の摂取量にも注意し、便秘や脱水しないよう働きかけている。また、身体に負担のない中で運動の場面も増やしていきたい。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴していただけるよう支援している。お一人おひとりの入浴のタイミングに合わせて、気持ち良く入浴していただけるような言葉かけ等を工夫している。	時間帯や頻度などは一人ひとりの希望を聞いており、ヒノキの浴槽で木のぬくもりを感じながら一人でゆっくり入浴を楽しんでもらっている。入浴前に脱衣室や浴室を温めたり、同性介助にするなど、安心して入浴ができるよう配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活スタイルに合わせて、安心して眠っていただけるよう対応している。また、室温や照明を調節したり、穏やかな気持ちで眠れるような言葉掛けや付き添いを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的・用量・注意事項などが記された説明用紙がファイルに閉じてあり、随時確認出来るようになっている。状態変化に伴い、主治医にも報告し服薬の調整を図ってもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お1人おひとりの力や特技・趣味を活かした支援に努めている。食事作りや茶碗拭き・たみ物等ご自分の役割として行っておられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩、ドライブ、月別外出等、お身体に無理のない中で出かける機会を持っていただく様努めている。また、個別にご家族と外出・外泊をされる方もおられる。	職員は、利用者本人から行きたい場所などについて聞けるよう心がけて日々関わっている。家族の協力を得ながら馴染みの場所や行きたい所へ出かけられるよう支援している。日常的にも一人ひとりの希望に応じて近くのスーパーへの買い物や散歩に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	食材等、買い物に行かれたときに、ご利用者の方からお支払いをしていただいて生活観を味わっていただいている。また、ご本人がお金を持つことで安心されるのであれば、ご家族に依頼し、小額でもご本人に持っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば自由に電話をかけていただいている。手紙も自由にやり取り出来るよう対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バルコニーでお花や野菜を育てたりして、食堂から見渡せるように配慮している。また、季節を感じていただけるような装飾を行い、居心地良く過せるように工夫している。	季節の行事の際の楽しい様子の写真が廊下に掲示されており、利用者が職員と思い出を振り返ったり、家族がホームでの日々の生活を知ることができるため、本人・家族に喜ばれている。廊下には椅子を置いてくつろげるようにしたり、バルコニーで花を育てるなど、利用者がゆっくりと居心地良く過ごせる空間作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳部屋・ソファー・談話コーナー等気の合う仲間が集まったり、思い思いに過せる居場所がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご本人・ご家族と相談して、ご本人が慣れ親しんだ物を持ちこんでいただき、安心して居心地良く過ごせるような工夫をしている。	家族と協力して、本人の使い慣れたものや好みのもの、思い出の写真や趣味の道具などを持ち込んでもらい、本人が居心地良く過ごせる居室づくりに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来ない事・困っている事は一緒にさせていただき、「できること」は行っていただくよう支援している。また、ご自分の居室とわかっただけのように入り口に暖簾をかけさせていただいたり、その方にとって目印になるものを付けたり、置いたりしている。		